

ソトボラ新聞

ソトコトによるボランティア支援のための新聞が好評発刊中。
東日本大震災の被災地で獅子奮迅の活躍をする
ボランティア情報を、現場から熱くリポートします。
写真・文 宇野章則

未来への思い込め卒業トロフィー制作!

福島 樹齢100年のモミジが材料。福島の小学生が「元気」をかたちに。



①この春卒業を迎える野木沢小学校の6年生、全18名が友人たちと仲良くトロフィーを制作。楽しい時間を過ごした。子どもたちの作品は「低炭素杯2013」で展示される。②夢いっぱいカラフルなトロフィーができあがった。③造形家の齊藤公太郎さん。トロフィー制作の指導にあたった。④仲田種苗園の仲田茂司さん。⑤樹勢の衰えた地元のオオモミジを伐採し、樹皮を剥ぎ材料とした。使えそうなものを選ぶところからトロフィー制作がスタート。⑥野木沢小学校の校庭にある線量計。設置後、健康に問題のない低線量を示し続けている。

原発事故に向き合い
作品をつくりだす

去る1月18・19日、福島県・石川町野木沢小学校の6年生18名が、卒業記念のトロフィーを制作した。材料となったのは、寿命に近づいていた推定樹齢100年の地元の在来樹、高さ12

メートルのオオモミジだ。「福島県は、23種ものモミジが自生する自然豊かな土地です。震災はありませんが、自分たちを取り巻く環境を見直すきっかけになれば」と、提供者の仲田茂司さん。地域の植生の象徴であるモミジを素材に、福島の子どもたちが100年の



「復興の船出をイメージしました」。ワークショップの最後にそれぞれの思いを発表。参観した父兄から拍手が起こった。

土地の記憶を未来へ繋ぐ。福島県のなかでもここ石川町は、首都圏並みに放射線量の低いクールスポット。トロフィーの素材となったオオモミジも事前に検査を行い、十分な安全が確認されたうえで提供されたものだが、昨年11月の伐採時にはさらに樹皮を剥ぎ、子どもたち自身による下処理を兼ねた「除染」作業が行われている。「原発事故後の福島をつくり、これからの日本のエネルギー問題に直面するのは彼ら。現実と向き合おうという作品を作ってほしい思いがありました」と語るのは、今回ワークショップで制作指導にあたった造形家の齊藤公太郎さん。石川町もまた深刻な風評被害に悩まされており、農産物などの売り上げが低迷。なかには転職を余儀なくされた一部家庭もあるという。そうした不安の渦中に暮らす子どもたちにとって、「心の奥深くにある思いを見つめ、作品として表現した経験は必ず未来の力になる」と齊藤さんは信じる。「一番大切なのは、この状況からモノを作り出したという事実です。これから先子どもたちの将来に何があっても、ボランティアな時間を過ごした今日のことを思いだしてもらいたい」今回のワークショップで制作された数々のトロフィーは、2月16・17日東京ビッグサイトで開催される「低炭素杯2013」にて展示。あわせて制作過程の写真展も実施する。また17日の表彰式では、思いを引き継ぎ齊藤さんが制作したトロフィーを、野木沢小学校の生徒が環境大臣賞受賞者に授与する予定だ。日本の未来を担う子どもたちが制作した、元気いっぱいのトロフィーを見に足を運んでみてはいかがだろうか。